

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572608974		
法人名	社会福祉法人 県南ふくし会		
事業所名	ピアホームかたくりの里		
所在地	秋田県仙北市桧木内字高屋91-1		
自己評価作成日	令和1年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和1年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ピアホームかたくりの里は自然に囲まれ、ゆったりと安心して生活できるような環境作りに努めております。ホーム前には畑もあり、職員とご利用者が一緒に作業をし収穫した野菜などは献立に取り入れ、季節の旬のものを味わっております。また、くもん学習療法にも取り組んでおり、認知症状の緩和や日常の楽しみ、コミュニケーションツールとして活用しております。ご家族との連携も密にし、月1回「家族通信」をご利用者一人一人について作成し、各ご家族へ送付しております。写真を入れ、日頃の表情や活動がわかるように、各担当職員が手作りで作成しております。日々の記録を充実させており、身体状況だけでなく、毎日の表情や言動、思い等も記録し、スタッフが情報を共有しケアに活かせるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は地域との交流が少なくなってきたと感じていることもあり、子ども達と継続して交流が図れるよう企画、実践しています。実習生の受け入れ、ホームの畑を利用してサツマイモの苗植えから収穫までを保育園児と一緒にいき、また、小中学校の行事にも積極的に参加して地域との繋がりが更に深められるよう取り組んでまいりました。職員間の連携も良く、利用者の状態の変化を見逃さずに情報を共有することで利用者一人ひとりを理解し、生活支援に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	県南ふくし会、ピアホームかたくりの里の理念、事業方針をホーム玄関に掲示するとともに日常的に申し送りや連絡ノート、スタッフ会議等を通して理念や事業方針の確認を行っている。	開設当初から理念は変えておらず、職員会議等を通して浸透が図られています。日常の介護場面においても理念が実践できるよう工夫を凝らしながら取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くにある小中学校の行事等に参加したりホームの畑にこども園の園児、地域の方、利用者と一緒に春、芋の苗植えを行い秋には収穫するなど交流を図りまた、隣接する特別養護老人ホーム清流苑とも連携し地域との交流を図っている。	地域との交流を更に深め、関係性を保つためにもさまざまな場面で子ども達と交流する機会をつくり、入居後も継続的に地域と関わり続けることができるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」の窓口として対応している。また運営推進会議の際に、地域の方との情報交換や様々な情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での日頃の活動や事故報告、受診状況、介護度状況、入居申込状況、研修報告、外部評価や実地指導等の報告、情報交換を行い、委員の皆さまから意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	会議では写真を利用して状況を伝えており、言葉だけでは伝わりきれないホームの取り組みを確認していただいています。参加者から出た意見をサービスの向上に繋げることができるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センター主催の会議に毎回出席し他職種と連携を図り、福祉事務所とも生活保護等について連携を図っている。また「認知症なんでも相談所」の報告の際、地域包括支援センターへ伺い、状況報告や情報交換を行っている。	相談事項に対応していただいたり、認知症カフェ、研修等を通じて情報交換が行われ、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、法人内の勉強会の他、資格取得や講習会など様々な場面で学んだり、マニュアルを良く把握し、身体拘束禁止に取り組んでいる。運営推進会議にて身体的拘束防止委員会を行っている。	定期的に会議を実施して職員の理解と周知を図ると共に、その内容を理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会のほか、講習会など様々な場面で学んだり、マニュアルを良く把握し、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、法人内の勉強会のほか、資格取得や講習会など様々な場面で学んだり、必要に応じ活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退去の際は、ご家族やご利用者の話をよく聞き、十分説明をし納得、了承を得た上で契約や解除等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口として開設者及び管理者の他、同敷地内に併設する事業所で共同の第三者委員を設置している。また、行政機関やその他苦情受付窓口として介護保険事務所、国保連、市町村もあることをご説明し、ホーム内にも掲示している。また、ご家族、ご利用者からの意見や要望等は都度話し合いの機会を設け、運営やケアに反映している。	家族の意見を積極的に引き出すためにアンケートの実施を検討しましたが、家族の遠慮があることも十分理解しており、話しやすい場面づくりを意識することを心がけて対応し、要望を反映できるように取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に申し送りや連絡ノート、スタッフ会議等で意見や提案を聞いている。スタッフ会議の際は職員一人一人の意見や思いを聞き、運営やケアに反映させている。	職員の連携は良く、気軽に話し合える関係性を築いています。申し送りや会議を利用して意見の収集が行われ、反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で行動計画を策定し、仕事と家庭の両立に配慮した職員全体が働きやすい職場環境を作ることにより、全ての職員がその能力を発揮できるように取り組んでいる。また、資格取得による特別昇給や学習評価手当の制度も整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得や施設内外の研修の参加に積極的に取り組んでいる。また、研修の内容については参加した職員が申し送りや連絡ノート、スタッフ会議等を通じて他の職員へも伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大曲仙北地域密着型介護事業者連絡会に加盟しており、主催の研修会、事例検討会などに参加し各施設との情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みや相談の際、十分にお話を聞き対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや相談の際、十分にお話を聞き対応している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活するものとして、喜びや悩みなどを分かち合い、ご利用者の能力を生かせるような援助を心がけている。また、日常の業務にとらわれすぎず、ご利用者のペースを大切にし支援している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時や電話、家族通信等にてこまめに状況報告を行っている。ご家族とスタッフが一緒に考え、お互いの意見を話し合い、ご利用者を支えていく関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との関わりを大切にし、帰宅や外出等も行っている。また、昔から通っていた理容店、美容院で散髪するなど、馴染みの関係が途切れないよう援助している。	お盆の墓参りや帰宅、電話対応等に家族の協力が得られている他、地域の馴染みの方との交流等、関係継続の支援に努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの方が日中リビングですごされ、自然にご利用者同士の会話や助け合いなどの良い関係が築かれている。また、ご利用者同士のトラブルには迅速に対応し、関係が悪くならないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族やご利用者の希望に合わせて同敷地内にある特養や居宅介護支援事業所との連携を図り、他サービスの紹介や介護に関する知識、情報提供等もおこない、契約解除後も支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の普段の生活状況を良く観察し、希望や意向、ご本人がどのような生活を望んでいるか等を把握し申し送りにて職員同士で共有しまた、それらをケアプランに反映させている。	日常のケアの中で個別に話を聞いたり、観察する等して利用者の思いを把握するように努め、連絡ノートで情報共有を密に行ってアセスメントに繋げています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、関係事業所から情報提供を頂き生活の経過等の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の状態など、ご利用者一人一人の様子を良く把握し記録している。また、小さな変化(体調や精神面等)も見逃さず、対応している。それらを記録し職員が把握できるようにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の要望等を聞き、必要に応じかかりつけ医や専門医の意見を頂きながら現状に変化があった際は見直しニーズに見合ったケアプランを作成し、援助している。	連絡ノート、アセスメントツールを活用してカンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成しています。本人、家族に確認すると共にその他の場面で聞いた家族の要望も介護計画に反映させています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録、業務日誌等に詳しく記録し、また、スタッフ間で連絡ノートを活用し、確実な申し送りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある小中学校の行事等に参加したり隣接する特別養護老人ホーム清流苑とも連携し、地域との交流を図っている。また、かかりつけ医や協力病院、消防署等とも連携を図り、安心して生活出来るよう援助している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望に応じ納得したかかりつけ医を受診できるようにしている。本人の訴えや心身の状態を医師に報告し適切な治療が受けられるように支援している。緊急時には協力病院である市立角館総合病院で対応できるよう体制を整備している。	本人、家族の希望に沿って支援しています。定期的な訪問診療が行われており、緊急時の対応も整っています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に併設されている特養の看護師はもちろん、西明寺診療所の看護師へも相談でき、アドバイスを受けながら支援できる体制を整備している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師、ケースワーカー等と情報交換を行い、入院中でも状態の把握や家族の相談に努めている。医療と福祉の連携の研修会に参加し医療関係者との情報交換を行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を伺うと共に、医師の意見や診断をもとに、事業所として「できること・できないこと」をはっきりと見極め、今後のケアの方針についてご家族と事業所が納得できるよう話し合い、了承を得てケアにあたっている。	終末期の支援は行っておらず、重度化した場合は法人内の連携により対応しています。状況に応じて医師から家族に説明があり、ホームででき得る支援が行われています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを把握しているほか、スタッフ会議や申し送り等でも随時確認している。また、スタッフは救命講習、研修等にも参加し、いざという時に実践できるよう努めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火避難訓練(夜間・日中想定)を行い、避難経路、避難場所、自動通報装置の使い方などを再確認している。地域住民の方にも参加して頂くなど地域との協力体制を築いている。	毎月26日を防災の日と定め、備品や設備の点検を行っています。敷地内の特養等、法人で防災対策がとられており、訓練には地域の協力があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食事や入浴、排泄等日常のケアにおいてプライバシーに配慮した声かけを行い、ご本人の意思を尊重した対応をしている。	訪問時にはプライバシーを尊重した言葉かけや丁寧な言葉遣いに配慮し、また、自立を損ねる対応をしないように心がけている様子がみられ、日頃からその人に合った対応が行われていることが窺えます。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの際には声かけを行い、ご本人の思いや希望に耳を傾け、混乱しないよう納得する形で援助している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人一人の生活パターンを把握し、ご本人の希望に合わせ、また、その時々々の気分や状態に合わせて過ごせるよう柔軟に援助している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒にその日着る服を選んだり、馴染みや愛着のある服などを持参していただいている。日常的に鏡を見ることが出来、ご本人自身も身だしなみを意識できるよう援助している。また、馴染みの美容院も利用できるよう援助している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好むものや昔食べた懐かしいもの、季節のもの等をメニューに取り入れ、調理や下ごしらえ、後片付け等を一緒に協力して行えるよう援助している。	台所に立つ方もみられ、その時々々に利用者の力が発揮できる場面をつくっています。皆で外出に出かけることはありませんが、ホーム前で桜を観ながらお弁当を広げる等、環境を活かした雰囲気づくりが行われています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については併設する特養の栄養士にアドバイスをもらい活かしている。また、必要に応じ食事チェック表を活用して一人一人の摂取量を把握している。また、ご本人の状態に合わせ、食事時間以外にも水分補給や補食等を行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前、起床後の口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗による不快感や羞恥心を抱かせないよう一人ひとりの排泄パターンを把握し本人の希望やサインを見逃さずトイレで排泄できるように支援している。	布パンツのみの方もおり、個々に合った排泄用品を使用してトイレで排泄しています。機能の低下により、改善できることは難しくなりましたが、チェック表を活用して失敗の軽減に取り組んでいます。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に牛乳を提供し献立に食物繊維を多く取り入れたり体操を行う事で便秘予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分や状態に合わせて柔軟に援助している。また、足浴や清拭、衣類交換等の援助も行い、清潔保持に努めている。	強い拒否の方はおりませんが、無理強いくことなく柔軟に対応して清潔保持できるよう取り組んでいます。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者一人一人の生活パターンを把握しながら、夜間よく眠れるよう、日中の活動援助等を行っている。日中もご本人の希望やタイミングで休息を取れるよう援助している。昼夜逆転もなく全ご利用者の生活リズムが整っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や効果、副作用、用法や用量などをよく把握し、いつでも確認できるようにしている。必要時はかかりつけ医や薬剤師に確認できる環境である。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや外出援助、行事、畑など、生活歴やできる能力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援が出来るよう努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブや外出援助、行事、畑など、生活歴やできる能力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援が出来るよう努めている。ご家族との外出も援助し、季節を感じられるような外出の計画を立てて援助している。	外出を希望する方は少ないものの、周辺を散歩したり、子ども達が畑作業する様子を見たり、また、庭先でお弁当を食べたりと外気に触れる機会をつくり、利用者が気軽に戸外に出られるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設にて小口現金を預かりそこから支出していますが自己管理出来る方はお金を所持して頂き希望があれば近くの商店などに同行している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎを行い会話出来るよう支援している。また、手紙や葉書の代筆や投函を代行している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を置くなど、温かい雰囲気作りにも努めている。不快な臭いがないよう防臭や衛生管理に努めている。	玄関の衝立が全てが視界に入ることを防ぎ、利用者と職員が2人きりで話せる小休止できる場所が廊下の一角に設けられています。また、職員が自宅から持参した花が随所に活けられ、利用者に季節を感じとっていただける配慮がみられます。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやダイニングテーブル、掘りごたつなどがあり、一人一人が思い思いに過ごせるような環境を整え、支援している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族とも話し合いながら使い慣れたものや好みのものを活かし、安心して生活できるものになるよう工夫している。	収納スペースが設けられていることから、室内はきちんと整理され、テレビや冷蔵庫、位牌等を自由に持ち込み、その人の行動に応じてベッドの位置を変更する等して居心地の良い環境をつくっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレを表示している。浴室やトイレ、廊下には手すりを設置し安全面に考慮しながら出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		